いた事は、私として遺族の方々に対し、幾分でも心軽くなった思いで御ざいます。すぐにでも御一共して下されし皆様の御霊を御慰めにと思いますが、遠く離れ年と共に目も足も弱くなり、お恥かしながらその日一ぱいの生活の上、今は一人暮しの身の上如何ともなしがたく、大分の方向へお詫びと御冥福をお祈りする毎日で御座います。

あなた様には御病の御体をもかえりみられず、埋もれていた事実を世の中に出して頂き、ただ〳〵感謝の外は御座いません。有り難う御座いました。聞けばあなた様には、当時一方ならぬ御助力下さいました由、亡き主人も草葉の陰でどんなにか感謝申し上げていることと存じます。亡き皆様に代り厚く厚く御礼申し上げます。

（中略）

昨日の返事の中に、当時の事故で生き残られし方が碑を御守りして居られたが、近頃御病気勝ちのよし、委しくは分りませんが、その方々に若し何かの御連絡でも御ざいましたら、よろしく〳〵おつたえ下さいませ。

ただ感無量で御座います。

（以上）

（猶集者添え書）

丹賀砲台の事故は、そしてその遺跡はみんなから忘れ去られようとしている。この歴史的な事実は文字にしるして後世に残さねばならない。幸いコンクリートで堅固に構築されている砲台の跡は、大部分そのまゝの形をとどめ、物凄い惨事の跡をとどめている。

そして慰霊碑も建っている。然し私は地元丹賀の方々、どなたかが更にくわしく当時の記録を残して下さることを望んで、この紙面提供を考えている。

（羽）

書翰

住吉大社参拝に寄せて

賛助会員　木田長
（大阪市住吉区墨江東）

新春お目出とう存じます。

幾十回となく繰返すお正月でありますが、矢張り気分が新たになり、今年はの区切りのつくものです。

清々しい気持ちで住吉大社に参拝しましたが、人の渦長く中で祈念中、お賽銭で数回後頭部を叩かれる始末でありました。此の日住吉の森は、青赤、黒など五色の色に着飾った善男善女、老いも若きも、と云った姿で埋めつくされました。

私は思った。この夥しい人達は、果して何を念じているのであろうか。単なるレジヤーの気持もあろう。祖先崇拝もあろう。追いつめられた公害、交通禍から、身の安全を祈願する意味もあろう。然し大凡の人は私達が異郷にあって久方振りに故郷へ墓参に帰るに似た気持ではあるまいか。ただ何となくなつかしさ、魂の寄りどころと云った気持ちではなかろうか。都会生活者はまさに情操に餓えているとでも言えよう。都会田舎の別なく最近は特に文化財を尊重、重視しはじめたのも此の意味からだろう。

佐伯史談会が祖先の遺業を究明し、正しい豊南地方の歴史を伝えることは、郷土の人達に大きな心の糧を与えることにもなると思います。

増々会の発展をお祈り致します。

（おわり）